

●ろうあ者の方に…

席を譲ってくれてありがとう

私は学生時代にアメフトの選手でした。体力にも自信があり、も多少の無理やパワーでは人に負けないと自負していました。社会人になってからもその気持ちが常にあり



先日、職場のアメフトの試合に参加する機会がありました。久しぶりのアメフトでしたが、ユニフォームを着ると気分はもう昔のまま気分が高揚してきます。自分の出番になり、学生時代の自信もそのまま相手とぶつかり合っているとうも様子が違うのです。気分は昔のままなのに体が根をあげているではありませんか。

結果、相手選手と将棋倒しになってしまい、重傷でアキレス腱を痛めて入院をしてしまいました。あと少しで断裂するところでした。偶然入院している病院にはラグビーの現役の選手もいました。その人は普段の修練の成果で鍛えられた筋肉と鋼の様な体であり、自分とは比べものにもなりません。

自分は社会人になって一切運動をしていないのですから当たり前です。無茶を悔いる日々がすぎ、やっと退院の時を迎えました。不自由な器具をつけて通勤し職場に復帰しました。器具をつけての通勤電車は苦痛です。

思うようにバランスが取れず優先席の前にものほしそくに「譲ってくれないかな」と立つものの、誰も席を譲ってはくれません。

私の気持ちがわかったのだと思います。ありがたく席に着かせていただきました。感謝の気持ちでいっぱいの中、これは神様がくださった私への自覚の機会なのだなとおもいました。

(住友銀行 森口忠之)

●ノコギリの刃がねから守ってくれた腕時計に…ありがとう

先日、私が子供の学童クラブのキャンプの準備に参加していた時の事です。キャンプファイアーに使用



する薪を、電動の木工用の丸鋸で切っていました。

薪を切っている時に堅い節に丸鋸の刃が引っかかり跳ね上がった勢いで私の左腕に襲いかかってきました。

腕に激痛が走り一瞬気を失っていました。気がつくとも腕は血に染まり、救急車に乗り病院に向かっていました。

すぐに治療を受け十五針縫う結果となり、そのままその病院に入院することになってしまいました。

治療をしてくれた先生も「この腕時計があなたの腕



を救ったね。これがなかったら食い止められずに腕が落ちていたね。」と言っておられました。

病室で自分の不注意さを悔いながらも丸鋸の傷のこる腕時計をしみじみと眺めながら、腕を落とさずにすんだ事に感謝し、五体満足な事に感謝をいたしました。

(目黒区/T・M)

●三六五日・三〇年間 毎晩電話をくれた父に…ありがとう

私の父はとても心配症です。女性の私が社会人になって一人暮らしをはじめた時から三六五日欠かさず、私を案じるおれもいでも連絡がつくまで必ず夜に電話をくれていました。

それは結婚してからも変わらず、毎晩連絡がつくまで五分ぐらいおきに電話が来るので、主人も閉口しておりました。

携帯電話が普及してからは、出先にまでも何度か電話が来るので主人も私も「又かあうるさいなあ、しつこいなあ〜」

とばかりに、父の好意を無碍に扱ったり居留守を使って電話に出ないときもありました。

子供が生まれてからは心配の対象は孫に変わり、毎晩、孫の声を聞くまで電話がきていたもので、私たち家族にとつてお爺ちゃんの電話は毎日の日常のあたりまえの事となっていました。

ところが、そんな父が大病を患い手術をすることになってしまいました。命だけは助かったものの、今では身体の自由もきかず、家の中にも不自由をしているようです。

父の手術後、一つだけ我が家に変化が

おこりました。それまで毎晩あった、父からの電話が来なくなったことです。その変化に主人も

「おとうさん体がきついんじゃないかな？自分の事で精一杯で余裕がないのかもしれない。電話してあげなさい。」と案じてくれます。

小さかった息子も

「お爺ちゃん大変そうだから僕も遊びに行つて元氣付けてくるね。」

と、今ではお爺ちゃんが大好きなやさしい子に成長しました。

今思えば毎晩の電話は不器用な父に出来る精一杯の私たち家族に対する愛情表現だったんだと思います。

これからは私が父に電話のお返しをする番です。

「お父さん毎晩電話をくれてありがとう。私たち家族を見守ってくれてありがとう。」

お父さん。いつまでも元気でいてくださいな。

(横浜市 主婦 Y・T)



セイヨウフウチョウソウ (西洋風蝶草) は、長く伸びた茎の先にピンクの花を咲かせます。細い花弁は蝶の触角のようにも見えます。

●おしいジューズと誇いの言葉を下さるお客様にありがとう

私は六十三歳の壮年です。事情があり代々続いた家業をやめました。廃業後、長年の疲れがたまり病氣療養もしましたが、お陰さまで今では元気になり宅急便の配達助手をしております。

小さいながらも事業主であった私には、年下の上司から指示されたり、叱咤されたりと、なにかとそうした人間関係等壁にあたりながらもどうにか仕事を続けています。

重い荷物をマンションやビルの上まで運ぶ時、わかい上司に怒鳴られた時などくやくして辛くて泣きたくなる時もあります。

でも最近では私を名指しで指名してくださるお客様もいらつしやいます。

「Oさんじゃないとだめ！。若いドライバーしや誠意がなくて・・・」

「暑いですね。これを飲んでくださいね。」と、お客様から差し出された冷たいジュース。

そんな、お客様の真心に触れたとき、私は幸せだっ感じます。

死なずに、生きていてよかったです。感謝の気持ちです。

(世田谷区/Y.O)



●今でも励ましのお手紙をくださる小学校の担任の先生ありがとう

私は小学校四年生の夏休みに、北区から板橋区に転校をしました。

思い起こすと今から五四年も前のことです。東京の環状七号線と云えば都内で最も自動車の通行量が多い幹線道路ですが、その道路がまだ工事をしていて頃の

ことですから、遙かに遠い昔のことです。環状七号線に通ってその小学校に通っていたのですが、なぜだか、その時の担任の先生とは今でも年賀状の交換をさせていただいているのですが、母と同年代の先生でしたから、今では九〇歳を超えていらつしやるのだと思います。



自分が還暦を過ぎた今でも、転校前の学校の前を通るたびにその担任の先生のことを鮮明に想い出しています。

私が年賀状を差し上げると、必ずお返事を下さり、ご自分のことよりも私に対して励ましの言葉を書いてきてくださるのですから、私は歳のことも忘れて、先生もまだお元気でいらつしやる思うだけで嬉しくなつてしまいます。

先生からいただいた年賀状やお手紙は、今でも大切に持って持っています。いつまで経つても、私の恩師として、心の中で生き続けていて下さり、辛いときに元気づけられているのだと思います。

(板橋区/T.H)

●父が愛した野球にありがとう

先日埼玉県の野球場で球団が主催したイベントがありました。

現代の選手がオールドユニフォームを着てプレーし、その球団の前身である往年のチームを偲び、OBの選手達に敬意を示すというのがイベントの主旨のようでした。

父と母と息子、そして私の四人、親子三代で参加いたしました。

イベントで始球式でマウンドに立った父はやせて背中がまがった老人でした。ふりかぶって捕手に向けて投球するのですがワンバウンドになつてしまい届きません。「あれ...？あの人が...怖かった厳格な

の父なんだろうか？」思わず私の目には涙があふれてきました。

父に対する今までの混沌とした思いが昇華して、私自身の奥深いところから、とてもさわやかな細胞が生まれくるような気持ちになつてゆきます。

最後に、父が観衆の前でスピーチをしました。

「今日は息子と孫も来てくれてあります。公式な場で親子三代がこのように会したのは初めてです。このような機会をあたえて頂きありがとうございます。私は現在の球団と私の時代の球団は別のチームだという認識がありました。しかし、この場を借りまして球団に感謝し、残りの人生は球団を応援する事に費やしたいと思います。」

老体が弱った足を引きずりながら現代の若手の選手達に手を取られようにして球場スロープを上つて行く往年のライオンズナインに向けて送られるファンからの激励の言葉に、応えるように手を振っている父とナイン。

そのナインの目にはうつつらと涙が。そして若手の現役の選手の先輩に敬意を表するやさしい笑顔。

長幼の序をあらためて感じながら父は泣いていました。

これは現代の選手にとつての親孝行の日なんだな...と、父に誇りを感じながらふと、となりに居る息子をみると息子も感動して目を赤くしています。

「おじいちゃん！これまで野球で我々家族を養ってくれてありがとう。」

「球団の皆様。父を世に送り出してくださいありがとうございます。こうして我々一家があるのは、おじいちゃんとおじいちゃんが愛した野球のおかげです。」

(ありがとう不動産 豊田泰幸)



【携帯 Deショット】 残暑の陽射しが厳しい蒸し暑い街でも、が園芸店のコスモスが風にそよぐと、秋の気配を感じます。蝶も密を吸いながら羽休めています。

- 携帯電話の方はQRコードから→
  - パソコンの方は下記のURLから↓
- <http://1039.seesaa.net/>  
●メールでのご投稿は...  
[info@holonics.gr.jp](mailto:info@holonics.gr.jp)



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せていただいた「ありがとう」の句、短文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただいた方にはリジナル「ありがとうマガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。



また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがでしょう。編集へのご意見やご提案がございましたら是非お聞かせください。

